

第8回柏崎市学区等審議会 概要報告

1 日 時 令和4年(2022年)7月28日(木)午後6時30分～午後8時15分

2 会 場 柏崎市役所4階 4-3・4-4会議室

3 出席者

- (1) 委員 16名 阿部会長、徳永副会長、五十嵐委員、池嶋委員、大谷委員、北村委員、関矢委員、遠山委員、富川委員、中村(豊)委員、中村(義)委員、拝野委員、宮坂委員、山田委員、吉田委員、飛田委員
- (2) 事務局 4名 宮崎教育部長、田辺教育総務課長、池田学校教育課長、矢沢学校教育課主幹
- (3) 傍聴者 2名
- (4) 報道 2名

4 都合により欠席した委員 4名 片山委員、小林(眞)委員、小林(美)委員、矢代委員

5 会議概要

- (1) 開会あいさつ 阿部会長
- (2) 審議事項
- ① 意見拝聴会を受けての所感
- ② グループ討議(鯖石小・高柳小、東中・第五中の統合)
- (3) その他
- ① 意見交換会の日程
- 9月11日(日) 午後2時から 東中学校
午後5時から 第五中学校
- 9月18日(日) 午後2時から 鯖石小学校
午後5時から 高柳小学校
- ② 次回審議会の日程
- 8月10日(水) 午後6時30分から
市役所1階 多目的室1、2
- ③ その他
- (5) 閉会あいさつ 徳永副会長

発 言 者	発 言 概 要
-------	---------

【開会あいさつ】

会 長 : 今月は学校訪問や地元への意見拝聴会など一連の活動が続いた。これらを通じて感じたのは、やはり学校統合にはメリット、デメリットがあること、それをどう評価するかの価値観は人それぞれであるということだ。特に、統合問題は子どもたちの教育環境がどうなるのか、子どもたちの幸せになるのかが言われるが、その点に関しても立場や価値観によって考え方が違う。審議会が一定の結論を出していく上で大事なことは、公平な目で見て子ども

ちにとってどうなのかを考えることだと思う。

今回は前半に意見拝聴会を受けての皆さんの所感を述べてもらい、後半にグループ討議に移る。当初のグループ討議の予定に余裕がなかったため、今後の進め方を若干再修正する。今日はグループ討議をまずスタートさせ、次回本格的な討議を行う。

【報告事項】

- 事務局：複式学級のデメリットについて追加の報告させていただきたい。
- 会長：発言を認めてよろしいか。
- 委員全員：異議なし
- 事務局：6月、7月に行われた学校訪問では授業の様子を見ていただいたが、その際実際に見る機会がなかった複式学級のA年度、B年度方式について説明する。第4回学区等審議会においても資料4-2として説明させてもらったが、その追加説明である。
- 第4回学区等審議会では「小学校3～6年生の社会、理科等については、2つの学年の児童が同じ学年の教科書の内容を学習する。A年度・B年度を設定し、2年間かけて、3，4年または、5，6年の学習内容を履修する。そのため、2年間の途中で転校すると、学習内容に空白が生ずる場合がある」と説明した。
- 今年の4月に小学6年生と中学3年生を対象とした全国学力・学習状況調査が行われたが、鯖石小学校の6年生は理科のテストを受験することができなかった。全国学力・学習状況調査は5年生までの学習内容を基に問題が出題される。現在の鯖石小学校の6年生は5年生の時に複式学級の授業で6年生の理科の内容を学習しており、5年生の理科の内容は今年度学習途中である。そのため、受験しても適切な結果が導き出せないことから受験することができなかった。これは、複式学級でA・B年度方式を採用していることの弊害だと考える。
- 再編方針の鯖石小学校と高柳小学校の統合では複式学級の解消にはつながらないが、複式学級にはこのような弊害が生じることを報告する。
- 委員：A・B年度方式の設定は各学校の教員が決めるのか。
- 事務局：A・B年度方式の設定は各学校が決定する。今回の全国学力・学習状況調査に合わせて、サイクルを変更することは2年前であれば可能だが、サイクルの変更によって学校側には大きな負担がかかることになる。
- 委員：教員も調査の内容と学習年度がずれていることを承知した上で、今回は受験しないこととしたのか。
- 事務局：そのとおりである。
- 委員：調査が受験できないことによって、子どもたちにはどういった弊害があるのか。
- 事務局：全国学力・学習状況調査は、原則、全国の小学6年生と中学3年生が受験する。調査の結果は、今までの学習で、どの程度の学力がついたかを判断する大事な評価の一つである。その他の学力テスト等でも評価は可能だが、全国的な調査を受験できないのは弊害だと考える。
- 会長：審議の前に一つ報告がある。
- 審議会としてできるだけ多くの人の意見を聞きたいと言ってきたが、審議会全体で動くには段取り等が負担となるため、正副会長だけでも様々な人から意見を聞き、審議会に報告して審議に活かしたいと考えた。先日、2人の市議会議員と話し合いの場を持ったので、その内容を報告したい。
- 出席議員は、市議会の教育分野等を担当する文教厚生常任委員会委員長の重野議員と高柳地域が地元の村田議員である。重野議員は元教員で、柏崎市内では松浜中学校、瑞穂中学校、西山中学校で勤務した経験がある。議員と

の話し合いの内容は審議会で口頭報告することを了承済みである。

重野議員からは以下の意見が挙げられた。

- ・6年ほど前から学区再編について審議会を立ち上げて取り組むべきだと言ってきたが、昨年度になって唐突に再編計画が発表された。
- ・議会の中では統合対象学区の議員と対象学区以外の議員とで温度差がある。議会全体で、再編方針が良いか悪いかまでは議論が深まっておらず、今のところ学区等審議会の活動を見守っている状態である。
- ・学区はどこであれ、山村留学や不登校の子どもへの支援のために少人数教育の学校を選べるようにすべきである。少人数教育の学校が統合の対象となることに対して「残念だ」という教員の声も耳に入る。少人数教育が良いか悪いかはその子どもによって違うが、選択できる環境が必要である。
- ・学区再編を2年間で行うのは期間が短いため、4年間は必要である。

村田議員からは以下の意見が挙げられた。

- ・高柳地域では小学生の保護者の反対が強く、反対一色と言っても過言ではない。保護者へのアンケートでは8世帯中2世帯の回答がなかったが、その内1世帯は既に他の地域へ移住してしまった。
- ・小学生の保護者は何かしら移住に関係した人が多く、地域の担い手となっている。高柳の将来はこういった人たちに懸かっている。
- ・学校がなくなると高柳消滅の後押しになりかねないため、せめて小学校は残してほしい。
- ・小学生をバスで通学させるようなことはやってほしくない。地元の人たちに見守られて育てていくべきである。
- ・高柳を目指して来た人たちは小学校の統合に反対し、高柳に生まれた人は「やむを得ない」「あまり反対できない」という温度差がある。私は高柳にやって来た人たちの思いを大切に、応援していきたい。

委員：子どもがいる8世帯のうち1世帯が別の地域に移住したのは、学校統合を理由としてか。

会長：1世帯は十日町市へ移住したそうだが、事情は分からない。

今後、他の市議会議員との懇談や高柳地域の人との意見交換も予定している。その都度報告し、情報を共有していきたい。

【審議事項】

会長：先日行われた意見拝聴会について参加した委員から所感を述べてもらう。欠席委員への報告は参加委員の所感で報告としたい。その後、欠席委員からの質疑も受け付けたい。

委員：学校訪問では高柳小学校で複式学級の授業を参観した。2学年が1つの教室の前後に分かれて授業を受けていた。児童が一人で自習をしている時もあったが、非常に真面目に授業を受けており、複式学級でも問題はないように感じた。

鯖石小学校では、ある学年は先生の方を向き、ある学年は反対の方向を向いて授業を受けていた。自習している子どもたちの中には雑談をする子どもや他の学年の授業が気になる子どもがおり、子どもによって複式学級は問題があると感じた。

また、高柳地域の保護者や住民は、高柳小学校と鯖石小学校の統合は良しとしても、進学先である第五中学校と東中学校の統合に関して、通学の不安があるように感じた。意見拝聴会では「通学時間が1時間以上かかる」「冬の道路状況を考慮すると無理がある」といった意見があり、統合は早急に決めるべきではないと感じた。

- 委員： 第五中学校と高柳小学校の学校訪問、鯖石小学校と高柳小学校の意見拝聴会に参加した。
- 統合によって学校を移動しなければならない地域は、悲鳴を上げてしまうほどの負担感があると思う。主な不安は通学のことである。大人でも1時間の通勤は大変であるため、小学1年生に係る負担はさらに大きい。高柳地域から十日町市に移住した人の真意は分からないが、通学の負担等も考慮して「十日町市に移住した方がまだマシだ」と判断したのではないか。通学手段の問題が解消されない限り、教育委員会が「教育環境を改善する」と主張しても理解が得られないと思う。
- また、保護者や地域に負担を強いる提案をしている以上、教育委員会には慎重な発言をお願いしたい。意見拝聴会で教育総務課長が「要望書の体裁を整えていなかったため、いただいた意見に対して返答が遅れた」と発言したが、一般の人は要望書でなければ回答がもらえないとは分からない。保護者の人が「こんな思いをするのは私たちだけで沢山だ」と言っていたが、要望書の体裁にきまりがあるのであれば、事前に地域住民や関係団体に提示するべきである。
- 委員： 学校訪問で複式学級の授業を参観したが、先生が行ったり来たりで落ち着かず、慌ただしい印象を受けた。同じ複式学級でも、高柳小学校と鯖石小学校では人数が違うため、雰囲気が異なると感じた。特に高柳小学校において、1学年に1人の子どもは授業中の話し相手が先生とタブレットだけであり、手が空いたときに手持ちぶさたとなっていた。
- 東中学校の意見拝聴会では、東中学校の保護者が1人も出席していないことに驚き、今回の学区再編の問題を象徴しているように感じた。統合される側と統合を受け入れる側では、学校や地域の関心度が全く違うことを再認識した。東中学校では学校や地域で統合に対する関心が薄く、統合される側からすると冷たさのようなものを感じると思う。受け入れる側の環境が整っていないように感じた。
- 一方で高柳地域や鯖石地域では参加者の発言から、学校や地域を思う気持ちが強く伝わり、人と人とのつながりの強さを感じた。そういった地域は子育て環境としても優れていると考える。以上のことから、校舎や設備が新しい第五中学校を地域一体型の小規模校モデルとして残してはどうかと考える。
- 委員： 高柳小学校と第五中学校を訪問した。
- 高柳小学校で複式学級の授業を参観したが、1学年1人の子どもも授業に集中しており、先生がいないときはタブレットを活用して学習ができていたため、複式学級のデメリットを感じなかった。ある学校では小学1年生が1学級25人おり、中には勝手に教室から出ていってしまう子どももいると聞く。それによって他の子どもの気が散るなど、大人数の学級にもデメリットはあると考える。
- 鯖石小学校と高柳小学校の意見拝聴会に参加したが、通学時間の負担やコミュニティの問題が意見として多く挙がった。一方で子どもの教育環境を改善することに対してあまり意見が挙がらず、教育委員会が主張する教育環境の問題を共有できていない印象を受けた。そのため、時間をかけて問題点を共有し、理解を得ることが大切だと考える。
- 委員： 高柳小学校の複式学級の様子を見て「この状況で良いのか」と疑問に感じたため、意見拝聴会で保護者や地域住民へ問いかけた。それに対して明確に回答を得た印象はなかったが、それも一つの答えだと考えている。保護者や地域としても「これで良いと思っている訳ではない」ということであり、現在示されている再編方針を単純に受け入れる気持ちにはなれないという思いの表れだと感じる。
- また、保護者や地域が統合を受け止め、覚悟を決めていくための時間や説明が必要であり、審議会としても保護者や地域住民の真意を確認し、受け止める機会が必要である。

会長から報告があったとおり市議会議員から意見を聞かせてもらう機会もあったが、保護者、地域の人たちが全体場で言えない思いを確認するためにも、今後、それぞれに意見を聞く機会が必要である。必ずしもその思いを汲み取った答申を出せるとは限らないが、機会を大切にしていかなければならないと思う。

委員： 学校訪問で複式学級の授業を参観したが、授業のやり方は高柳が行っているA・B年度方式が良いと考えており、それほど複式学級の授業に問題はない。授業はきちんとできている。1学年1人でも楽しくできる授業の方法は学校で計画していくため、1人だと授業が寂しいというようなことは審議する必要はない。

「学校を中心として地域づくりを行う」という国の指針があるが、地域では地元の学校をどうするかという話し合いができていないように感じた。南鯖石地域ではすでにアンケートをとったが、学校を中心にした地域づくりに力を入れていくと違った観点で統合をとらえることができると考える。

保護者の中には、国が示している学校の適正配置等に関する手引きを熟読している人もいた。手引きにも「単に人数で統合を決定するのではなく、地域とよく話し合うことが必要」と書いてある。それに対して教育委員会や学区等審議会が答えられないのは問題である。また、手引きには少人数の場合の統合の仕方や通学時間の目安、1時間通学した際の体力面についても記載がある。

今後のスポーツのことを考えると、事前に地域スポーツクラブを立ち上げてこなければならなかった。そういった後手後手に回っている部分もあり、統合の話がうまく進まないのではないかと感じている。

また、実際に学校に通う子どもがいる家庭といない家庭との温度差があると感じた。地域全体で子どもたちを育てるという意識づけ、「統合によって数年後に今よりも地域が良くなるかどうか」という観点で考えていかなければならない。今は大変だが、数年後に「統合して良かった」と考えられるならば統合すべきだし、地域づくりがうまくいかなければ統合は失敗したことになる。現在子どもがいる家庭だけでなく、これから子どもが学校に入学する家庭のことも考えて、審議会として結論を出していかなければならないと感じた。

委員： 第五中学校を訪問した際に、校長先生の教育に対する非常に熱い思いを聞いた。意見拝聴会でも保護者から「第五中学校の先生が素晴らしく、授業も含めたすべてにおいて満足している」「第五中学校がなくなるのは柏崎市の宝がなくなるということだ」という意見を聞き、単に大規模の学校へ統合するだけでなく、別の方法を検討する必要があると感じた。

委員： 学校統合に限らず、市民の意見を聞く場ではどうしても反対意見が多くなる。これは、賛成の人は殊更に意見を言う必要がないからである。第五中学校の意見拝聴会で委員から「アンケートでは賛成・反対が拮抗しているのに、会場では反対意見が多く聞こえる」という指摘があった。反対意見は貴重なものとして受け止めているが、意見拝聴会では両方の意見を公平に聞きたいと考えていたことから、賛成の意見を聞くことができなかつたのは残念である。

また、東中学校の保護者が1人も参加していなかったことに驚いた。今の状況で統合した場合、受け入れてもらえるのかという不安を抱いた。

各会場で「方針の発表が突然であり、決定事項のように公表された」「方針を策定する段階で地域の意見を聞いていない」という意見が多く挙がった。特に第五中学校ではそういった意見が強かった。教育委員会側にも言い分はあるが、結果として地元の反発を招くやり方であったことは否定できない。統合について議論するたびにこのような話題が挙がり、本来の議論ができないのは建設的ではなく、審議会の役割の見られ方にも影響する。今後機会があれば、教育委員会は、非があった部分は認め、誠意を示した方が良い。そうでなければ地域の人はいつまでもその部分にこだわり続けると思

委員：う。
鯖石小学校の意見拝聴会において、高柳小学校の保護者から「学区再編方針の高柳小学校の統合年度が間違っている。高柳地域の住民にとっては、このようなミスがあるだけで真剣に向き合ってもらえていないと感じてしまう」という指摘があった。そういったミスがあった場合、例えば次の会場に移動するまでの時間で資料を差替えて、次の会場では正しい資料を用意するなど対応すべきであった。事前に委員に配付されていた資料は正しいものであるため、差し替えは可能であったはずだ。

また、意見拝聴会の場で「要望書の体裁を整えていなかったため、いただいた意見に対して返答が遅れた」と説明をするのは、参加者に対して上から目線で対応しているような印象を受けた。交渉事において、ゴマをするような発言をする必要はないが、自分たちが間違っていたのであれば、素直に誤りを認めた上で話し合いを進めるべきである。反対意見の人が頑なであるのに、教育委員会が誤りを認めず、自分たちが正しいという姿勢を進めると、話がうまくまとまっていけない。これは世間一般でも物事を交渉する上で常識的なことであるため、今後注意して進めてほしい。

会長：他に所感、質疑等なければ、グループ討議に入る。

会長：それではグループ討議に入る。事務局から説明を求める。

事務局：グループ討議は4グループで行う。資料のとおり名簿順で1～4のグループに振り分けた。

会長：グループ分けについて異議はあるか。

全委員：異議なし。

会長：当初の予定では今回グループ討議を行い、次回グループ討議の報告・質疑を行うこととしていたが、グループ討議の時間が短いため、今回と次回でグループ討議を行い、8月25日の審議会でグループ討議の報告・質疑を行う。当初の予定から内容が1回分後ろ倒しになってしまうが、予備日となっていた9月8日に審議会を開催して対応することとしたい。9月には地元との意見交換会を予定しているため、9月8日は審議会全体として統合の是非など、ある程度の方向性について話し合うこととしたい。

グループ討議では進行係1名、記録・発表係1人を決めてもらう。鯖石小学校と高柳小学校の統合、東中学校と第五中学校の統合についてそれぞれのグループで話し合い、できれば一致した考えを示してもらいたい。一致しない場合は両論併記でも構わないが、グループにおいて、ある程度考えを絞り込んでもらいたい。これまで様々な意見が出てきたので、グループ討議では整理・集約を行ってほしい。その後、各グループの意見を報告してもらい、審議会全体で審議していきたい。

(グループ討議)

【その他】

事務局：次回の審議会は、8月10日（水曜日）午後6時30分から市役所1階多目的室1、2で行う。

委員：東中学校での意見拝聴会で東中学校保護者の参加がなかったが、小中学校PTA連合会から保護者へ参加を促した方が良いか。

事務局：意見拝聴会は自由参加であるため市から保護者へ参加を依頼することはできないが、小中学校PTA連合会として協力いただける部分があればご協力いただきたい。

以上、相違ないことを確認する。

令和4年（2022年）8月10日

会 長 阿 部 義 章

副会長 德 永 優 子